令和6年度　　昭島市立東小学校　　学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価【総括表】

学校教育目標	◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○健康で明るい子	ビジョン	【目指す学校像】 ○子供たちが、安全・安心に楽しく過ごせる学校　○家庭・地域と共にある学校　○子供たちが、学ぶ喜びを実感できる学校
			【目指す児童・生徒像】 ○自ら考え、主体的に学ぶ子供　○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子供　○心身ともに健康で、活力のある子供
			【目指す教師像】 ○人権感覚を磨き、子供を大切にする教師　○常に向上心をもち、指導力の向上に努める教師　○公務員としての自覚をもち、信頼される教師

領域	中期経営目標（3年間）	短期経営目標（1年間）	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学ぶ楽しさを実感できる授業改善の推進 日常の指導の充実	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	○指導と評価の一体化した授業 ○タブレット端末を活用した授業実践 ○学力調査の結果の分析及び授業改善推進プランの作成・実行 ○めあてを明確にし、振り返りを確実に行う授業	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が授業が分かると回答 3 80%～90%未満の児童が授業が分かると回答 2 70%～80%未満の児童が授業が分かると回答 1 70%未満の児童が授業が分かると回答	4	○児童に評価のポイントを伝えることで、目指す姿を共有した。 ○タブレット端末を活用した授業を行ったが、時間配分に課題が残った ○指導と評価の一体化した授業に取り組んだ。定着が不十分な際はすぐに授業改善に取り組んだ。 ○評価内容（項目）明確ではなかった。 ○基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んだ。	○基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んだことは評価できる。 ○タブレット端末の効果的な活用方法について研究する。 ○タブレット端末を使った授業を計画的に行う。 ○振り返りの時間を十分に確保する。 ○日々の児童の評価を欠かさず記録する。	4	○ルーブリック評価を取り入れ、自己評価する機会を増やす。 ○タブレット端末の効果的な活用方法について研究する。 ○タブレット端末を使った授業を計画的に行う。 ○振り返りの時間を十分に確保する。 ○日々の児童の評価を欠かさず記録する。
		読書に関する指導や読書の習慣化への取組を日常化した読書活動の充実	○朝読書の計画的な取組 ○読書月間の取組の充実 ○図書支援員の有効活用 ○授業での図書資料の活用	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	2.9	4 85以上の児童が30分間以上の読書をしている回答 3 85%～90%未満の児童が30分間以上の読書をしている回答 2 80%～85%未満の児童が30分間以上の読書をしている回答 1 80%未満の児童が30分間以上の読書をしている回答	1	○支援員の協力で、ふだん読まないような本にも関心をもつ児童がいた。 ○授業に図書資料を計画的に取り入れた。 ○朝読書の時間を確実に行った。	○文字離れが進む中、朝読書の徹底を確実に行ったことは評価できる。 ○紙のよさももろんあるが、タブレット端末に図書アプリを入れるのは可能か。 ○本に興味をもつように様々な試みが行われているが、継続して自主的に読むようにするには時間と児童の意志が必要。	3	○調べ学習の手段として図書資料を上り活用できるようにする。 ○図書の時間の十分な確保と静かに読書できる環境整備を行う。 ○担任による読み聞かせを計画的に行う。 ○読書月間・週間で児童の興味・関心を高める取り組みを行う。 ○家庭での読書の習慣化定着のために保護者会等で情報共有を行い連携・協力して行う。
		多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進	○校内委員会の充実 ○大空教員との連携 ○ユニバーサルデザインを意識した環境づくり ○個に応じた教材・教具の工夫	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3.4	4 90以上の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 3 80%～90%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 2 70%～80%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 1 70%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答	4	○校内委員会を通じて共通理解をして支援を行った。 ○ねらいや焦点化を図ることで、全員が同じ課題に取り組んだり、考えたりできた。 ○個に応じた座席の配置、教具の作成を特別支援教室や他の教員と相談し作成した。 ○個別の教育支援計画・指導計画を基に指導内容を振り返り改善を図った。 ○視覚教材の使用、指示の明確化等の工夫をして授業づくりをした。	○全員が同じ課題に取り組んだり、考えたりできたことは評価できる。 ○工夫された方策が形になって表れていると思う。引き続き力を入れてほしい。 ○情報を共有して1対1の対応ではなく、複数で対応していることが分かった。	4	○研究と関連付けて、授業でのユニバーサルデザインへの知見を高めていく。 ○特別支援教室や家庭との情報共有を確実に行う。 ○個に応じた指導の準備のための時間を確保するためにスケジュール管理をふかわ上げる。 ○担任と特別支援教室担当との連携、児童への支援・観察を充実させる。
豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いの中で、子供の内面を育てる道徳的な指導の実践	道徳全体計画、年間計画の見直しと「特別の教科 道徳」の授業改善と充実	○教職員同士による授業参観 ○道徳的価値や内容項目を明確にし、児童の変容を見取る ○年間指導計画の確実な実施 ○全教育活動を通じた道徳教育の実施	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	2.8	4 90以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 3 85%～90%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答 2 80～85%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答 1 80%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	○教科書以外の教材を生かした授業づくりを積極的に行った。 ○授業を参観できなかった。 ○OJTで学んだことを道徳科の授業で実践した。	○教科書以外の教材を生かした授業づくりを積極的に行ったことはよい事例に値する。] ○他の学級や学年、他校への参観の時間をしっかり確保できる環境づくりにより一層努めてほしい。 ○個人の意見を否定することなく他の意見を受け入れて考えている。その場だけでなく少しずつ生活に生かせている。	3.5	○板書や話合いの仕方の工夫をさらに広げていく。 ○OJTの時間を工夫する。 ○様々な教員の授業を計画的に参観する。
		いじめの未然防止と早期発見、早期対応を推進し、安全で安心な学校の実現	○毎学期のアンケートを生かし、スクールカウンセラーや専門機関と連携し、いじめ・不登校0の実現 ○迅速かつ密な情報共有による組織的な対応	4 アンケート実施後の個別対応100% 3 アンケート実施後の個別対応95% 2 アンケート実施後の個別対応90% 1 アンケート実施後の個別対応85%	4	4 不登校（傾向を含む）人数0人 3 1人 2 2人 1 3人	3.8	○アンケート等で得た情報を校内で共有し、どのように対応すべきか管理職等と相談して対応した。 ○保護者にスクールカウンセラーへの相談を勧めた。 ○スクールカウンセラーからの専門的な意見が参考になった。 ○アンケートの聞き取りから個別対応を行った。	○いじめに関してアンケート等を活用して対応したのは、よい方法だと思う。 ○東小からでは の継やかな対応ができている。とてもよい結果が出ている。 ○本人からの訴えだけでなく、周りの訴えも受け入れて対応している。そのことでいろいろな情報が集まっている。	4	○学級経営の中で互いを認め合う風土をさらに強固にする。 ○今年度同様に引き続き初期対応を迅速に行う。 ○外部機関との連携を強める。 ○特別支援教育コーディネーターとの情報共有を密にし、校内の児童の実態を把握し、専門的な助言を行う。
		学校行事等を通して異学年間の交流を深め、豊かな人間性の育成	○交流体験活動の実施 ○実践的体験活動の実施 ○栽培体験学習の実施 ○縦割り班活動の充実	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	2.9	4 90%以上の児童が学校が楽しいと回答 3 80%～90%未満の児童が学校が楽しいと回答 2 70%～80%未満の児童が学校が楽しいと回答 1 70%未満の児童が学校が楽しいと回答	3	○縦割り班活動でいろいろな学年と交流ができている。 ○保育園との交流が児童にとってよい経験になった。 ○栽培体験学習が十分に行えなかった。 ○学校行事における異学年交流の充実に努めた。	○保育園との交流が児童の生活に生かされていると思う。 ○異学年交流はできていると思うが、楽しめている児童がどの程度いるのかが不明。一層期待します。 ○少子化と言われる現代で様々な年齢の人たちと関わることが小さい頃からできる試みはすてきだと思	3.5	○栽培体験学習の計画を年度始めに立てる。 ○学校行事における異学年交流は積み重ねが必要なので継続していく。 ○縦割り遊びの遊びのバリエーションを増やす。
健やかな体	様々な運動を体験させて、その特性に触れた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励	○休み時間の外遊びの奨励 ○運動に親しみやすい環境整備 ○運動集会を活用した児童の運動への興味・関心の向上	4 毎週子供たちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上 3 2回 2 1回 1 0回	3.2	4 90%以上の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 3 80%～90%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 2 70%～80%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 1 70%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答	2	○子供と一緒に遊ぶ機会・時間を設けている。 ○個別の対応、委員会の指導等で十分に遊ぶ時間を確保できなかった。 ○担任の教員が休み時間に児童と一緒に遊んでいる学級は外に出て遊ぶ児童が増えている。 ○可能な限り児童と外で一緒に遊ぶようにしている。	○児童と一緒に遊ぶのは、よいことだと思う。 ○先生方の体を使った努力が、十分に見て取れた。今後も頑張ってほしい。 ○苦手意識を軽減しながら、楽しんで体を動かせる機会が増えればよいと思う。	3.5	○委員会活動で外で遊ぶ取組を増やす。 ○個別の対応が必要な児童も含めて遊ぶ時間を確保する。 ○外遊びへの声掛けを継続していく。
		年間を通した体力向上への取組（「元気アップガイドブック」等の活用）	○「元気アップガイドブック」の活用及び「グッドモーニング60分」への取組 ○運動の特性を生かす体育授業改善 ○めあてが明確な学習の展開 ○オリンピック・パラリンピック大会後のレガシーを生かした取組	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	2.6	4 90%以上の家庭が体力向上に満足と回答 3 80%～90%未満の家庭が体力向上に満足と回答 2 70%～80%未満の家庭が体力向上に満足と回答 1 70%未満の家庭が体力向上に満足と回答	1	○子供たちが楽しんでめあてを達成できる体育の授業づくりを心掛けている。 ○振り返りで児童の学習意欲を高めた。 ○休み時間に鉄棒の練習をしている児童の支援もし意欲や技術の向上に努めた。 ○「元気アップガイドブック」を十分に活用できなかった。 ○家庭での過ごし方についてチェックリストを活用し、支援を行った。	○成果指標よりも実際はよいのではないかと思う。 ○子供たちが楽しんでめあてを達成できるように努力していると思う。。 ○習い事、体育の時間以外で体を動かす機会が減っていると感じる。せめて休み時間だけでも外で遊んでほしいと思う。	3	○委員会活動で外で遊ぶ取組を増やす。 ○体育の授業で「元気アップガイドブック」を活用する。 ○「元気アップガイドブック」の振り返りを学級全体で時間をかけて行い、共有する。 ○体育部による「元気アップガイドブック」活用の研修を行う。
		食育の充実	○ランチルームの計画的な有効活用 ○栄養教諭や共同調理場と連携した食育の推進 ○地域人材や資源を活用した食育に関する授業の実施	4 年間で食育に関する授業の実施3回以上 3 2回 2 1回 1 0回	2.2	4 年間の残菜率7% 3 年間の残菜率8% 2 年間の残菜率9% 1 年間の残菜率10%	3	○家庭科や給食の時間で栄養バランスを考えた食事の大切さを学習した。 ○学級活動で給食のマナーについて考えさせた。保護者会で食育を話題に話し合った。 ○年度途中で栄養士が変わったため食育への取組が行えなかった。	○年間の残菜率が8%に上昇したことは、残念である。 ○給食時間の保護者参観などをして家庭でも話題になるようにするのもよいのではないか。 ○来年度は、給食試食会を実施したい。親子で食べる機会があるとよい思う。	3	○外部人材を効果的に活用した授業づくりを考える。 ○生活指導に加え学級活動を使って指導していく。
輝く未来	人権尊重の精神を基調として心身ともに健康な児童の育成を目指し、自他の大切さを認め、人権課題について学び、権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童が未来を生きていく力の育成	一人一人のよさを生かし、意欲とまとまりのある学級集団づくり	○学級経営の振り返り・評価・改善 ○児童の考えや意見を生かした教育活動の工夫 ○学級満足度調査「Q-U」の結果を有効に生かした児童理解・学級づくり ○学級満足度調査「Q-U」の結果を有効に生かした課題の把握・改善	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	2.7	4 QUの結果で各学級の要支援群0人 3 1人 2 2人 1 3人	3	○毎週学級経営の振り返りをし、翌週の指導へとつなげた。 ○一人一人の良い点は認め、課題については確実に伝える。 ○一貫した指導を行う。 ○QUの結果を基に児童への言葉掛けや活動を工夫した。 ○気が付いたことを担任と共有し、学校全体で見守る姿勢で取り組んだ。	○気が付いたことを担任と共有し、学校全体で見守る姿勢で取り組むことは評価できる。 ○進級のタイミングでの引き継ぎをしっかりと行ってほしい。 ○苦手なことにもチャレンジできる機会を用意していろように感じる。	3.5	○特別活動で児童の願いをかなえる機会を増やしていく。 ○支援が必要な児童一人一人を理解し、きめ細やかな指導を行うための特別支援教育の研修を特別支援教室の教員を講師に校内で研修を行う。 ○共通理解を継続していく。
		学級活動を中心に、全教育活動におけるキャリア教育の充実	○学校生活への適応 ○仲間づくり、集団の結束 ○自ら役割の自覚 ○年間指導計画に応じたキャリア教育の実践	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3.2	4 90%以上の児童が得意・ものを考えると回答 3 80%～90%未満の児童が得意・ものを考えると回答 2 70%～80%未満の児童が得意・ものを考えると回答 1 70%未満の児童が得意・ものを考えると回答	3	○学校行事を通して協力して物事に取り組むことの大切さを実感した。 ○学級活動を計画的に進めた。 ○当番活動で人のために役立つ大切さについて振り返りをしている。 ○小中連携で中学校教員に協力してもらった授業実践は児童にとってもよいものだった。 ○児童会活動において各項目を意識できるように取り組んだ。	○小中連携での行事は、よいことだと思う。 ○みんなで考えてまとめて協力しようと考えている子供が多いと感じる。 ○高学年児童の自立感や運営力の成長が目覚しい。取組が形になっていると思う。	3.5	○行事の際に児童が主体となって取り組める機会を増やす。 ○キャリアパスポートの計画的・効果的に活用する。 ○これまでの特別活動の研究で学んだことを継続して行っていく。 ○次年度も中学校教員に協力してもらう。
		保護者・地域と連携し、様々な活動を通して、将来への希望をもたせる	○地域人材を活用した取組の充実 ○家庭訪問・個人面談の実施 ○専門機関との連携 ○PTA活動への理解と協力	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	2.8	4 90%以上の児童が将来について考えると回答 3 80%～90%未満の児童が将来について考えると回答 2 70%～80%未満の児童が将来について考えると回答 1 70%未満の児童が将来について考えると回答	2	○個人面談で家庭と児童の情報共有を行った。 ○開校70周年記念集会で開校当初の卒業生の地域の方にお話しいただいたのは、愛校心や地域への愛着を図ろうえでとてもよかった。 ○PTAの活動に参加できた。	○地域との連携がしっかりできていて評価できる。 ○より多くの地域や保護者以外の大人と接することのできる機会が増えたらよい思う。 ○PTAとして休日のイベントだけでなく、日頃から学校や地域と連携して親子で体験できることを増やせればと考える。以前と比べるとそういった機会が減っていると感じている。	3.5	○面談通して児童の頑張りを具体的に伝える。 ○ホームページや地域の関係者から情報を得て、幅広い人材発掘を行う。 ○PTAの活動に参加するだけでなく手伝いなどで協力する。 ○専門機関と積極的に連携する。